

第 35 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時：2011 年 9 月 21 日（水）12：00～13：00

場所：北九州国際会議場 メインホール B 会場

議事内容

1. 川上部会長挨拶

2. 平成 22 年度バックエンド部会賞

平成 22 年度部会表彰者はバックエンド部会表彰委員会での選考及び運営委員会での承認を経て以下の方々に決定したことを報告した。

第 22 年度バックエンド部会賞 受賞者一覧

功績賞

（該当者なし）

業績賞

北海道大学大学院 工学研究院エネルギー環境システム部門 原子力環境材料学研究室 殿
表彰理由：当該研究室は、「放射性廃棄物地層処分にに関する情報交換会」を長年継続して主催して来られ、多岐に渡る原子力バックエンド分野研究の活性化に大きく貢献していると高く評価される。同情報交換会でのプロの研究者の真剣な議論は、学生にとって貴重な経験となり、将来、原子力バックエンド研究を担う学生の教育の場としても大きな貢献をもたらしたと評価される。

奨励賞

玉村 修司 殿

表彰理由：原子力バックエンド研究（Vol. 17, No. 2）に掲載された総説「Loading Capacity(LC)法を主とした地下水中の溶存有機物と放射性核種との錯形成能評価」は、核種の地下水移行促進および遅延の検討において重要な有機物の寄与について、錯生成とそのモデルの観点から既往の成果をレビューし、その内容について著者らの考え方を加えており、有機物影響の研究に取り組む者の一助となるものと評価される。今後も、原子力バックエンド分野において、地下水中の核種移行に及ぼす腐植物質の影響に関わる若手研究者として、益々の活躍が期待される。

優秀講演賞

奥村 啓介 殿 高橋 宏明 殿

表彰理由：原子力学会 2010 年春及び秋の年会の口頭発表において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

3. 平成 23 年度活動中間報告

3.1 企画報告（企画セッション、H23 夏期セミナー）

①国際会議関係

・PBNC (Pacific Basin Nuclear Conference 環太平洋原子力会議)の準備状況について報告した。2012年3月18日～23日、韓国(釜山)で開催予定。

・EAFORM (East Asia Forum on Rad-Waste Management)の準備状況について報告した。次回は2012年秋頃、中国で開催予定。

②夏期セミナー

・平成23年度の夏期セミナー開催実績を報告した。

日時：平成23年8月4日(木)～8月5日(金)

場所：御宿東鳳(福島県会津若松市)

参加者：128名

プログラム内容：

- 1日目 §1 福島原発事故収束に向けたバックエンド領域の論点(I)、§2 福島原発事故収束に向けたバックエンド領域の論点(II)、§3 グループ討議
- 2日目 §4 福島原発事故収束に向けたバックエンド領域の取り組み(実践編)、§5 国際的な経験や視点からの論点、§6 グループ討議結果報告および全体討論

③日本地質学会トピックセッション共催

・日本地質学会 トピックセッション「地層処分と地球科学」(平成23年9月9日～11日 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会)の共催について報告した。

④ポジションステートメント

・平成23年度 第1回PSWG(8月31日)でのバックエンド部会に係る事項について報告した。

3.2 広報報告(週末基礎講座案内等)

①バックエンド週末基礎講座

・平成22年度の週末基礎講座の開催実績について報告した。

日時：基礎講座 H22.10.30(土)

実践講座 H22.10.31(日)

場所：福井大学文京キャンパス

参加者：40名

・平成23年度の週末基礎講座の計画について連絡した。

日時：基礎講座 H23.10.29(土)

実践講座 H23.10.30(日)

場所：九州大学伊都キャンパス

3.3 出版報告

①部会誌「原子力バックエンド研究」の出版状況について報告し、積極的な論文投稿を呼びかけた。

②部会誌の現状と課題

- ・部会誌 Vol. 16 No. 1(2009 年) より CD-ROM 化(冊子体廃止)として経費削減につとめているが、出版経費が現在も赤字になっていることを報告した。
- ・部会誌発行メディア(CD-ROM)について、CD-ROM の閲覧頻度、保存メディアとしての持続性などに関して不安点を踏まえ、部会誌ビジョンについて(最重要課題、長期的ビジョンに立った部会誌発刊および出版体制の強化の必要性を説明した。
- ・そのうえで、J-STAGE の利用、CD-ROM 発行回数の半減について提案した結果、以下のコメントがあったが、反対意見はなく承認された。将来的には完全なオンラインジャーナルに移行することを視野に入れることとした。

部会員：部会誌は引用のため、早く掲載されることが望まれる。J-Stage になるとどうなるのか？

運営委員：移行しても問題ない。先行発表もある。

部会員：CD-ROM 半減については、CD-ROM 自体無くても問題ないように思う。これまでのような要望や議論があったのか。

運営委員：なにかないと寂しい、という意見があった。急にゼロではなく、徐々に減らしていく、という議論があった。

部会員：J-STAGE では煩雑な手続きがあり、それを部会で準備・負担する必要があるのではないか。

運営委員：BIB ファイルのことと思うが、問題ないと考えている。

運営委員：補足となるが、当部会誌はすでに J-STAGE 側の審査申請(J-STAGE 利用に値する雑誌かどうかの判断)は合格している。

3.4 庶務

①海外発表助成制度

- ・平成 22 年度は上下半期とも応募無し

②研究会支援制度

- ・平成 22 年度は応募無し

以上